

今だからお伝えしたい

AI商品

の

これから

New
Business
Venture

Z-SOFT株式会社からのご提案

人と
響き合う
AIロボット



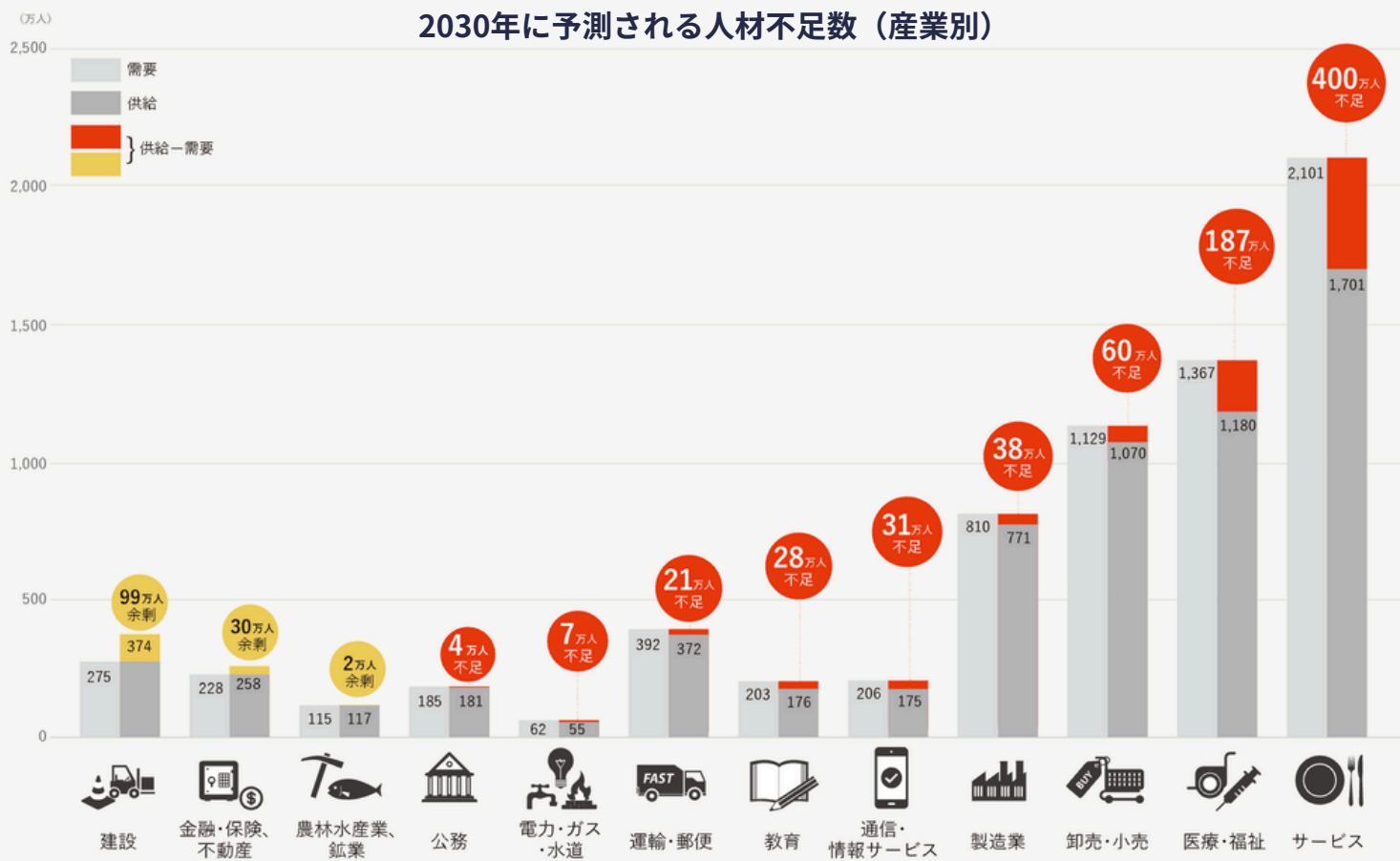
日本の市場・AIロボットの必要性



今後も続く 労働力不足

2030年には400万人の人材が不足されると予測されているサービス業においては、ロボットの活用・共存は必須と言っても過言ではなくってきており、サービス業以外にも多様な業態に合わせて利用できるものが増えています。

また都道府県別では、東京都、神奈川県が50万人以上の不足、埼玉県、千葉県、静岡県、愛知県、兵庫県が20万人以上50万人未満不足と言われています。



(産業別にみた人手不足)

出展：パースル総合研究所×中央大学「労働市場の未来推計2030」より

突然
ですが

どちらの未来を
選択しますか？



現状のままでの『これから』

必ず起こる 3つのリスク



01 運営コストの圧迫

サービス業の人件費上昇率は、過去10年で約25%増。物価高がさらに進むことも重なり、コストの高騰は避けては通れない流れに。



02 売上の減少

人材不足が構造的に進むことで、サービスに対する付加価値の低下や本来あるべき価値提供の機会も減少、負のスパイラルに。



03 顧客満足度の低下

ゆとりのない環境で離職増。「人が足りないのにサービス品質を維持しなければならない」という課題が顕著となる中で、解決策もなく、次第にお客様の心も離れていってしまう流れに。

AIロボットとともに過ごす『これから』

活用することで得られる 3つのメリット



01 運営コストの削減

ロボットの稼働によって、スタッフの店舗運営業務を削減。ピーク・アイドルタイムそれぞれの売上高人件費率を改善できます。店舗運営人数の適正化によって、人件費の削減が可能に。



02 売上の最大化

業務の効率化によって座席稼働率が向上し、来店客数が増加。ロボットの稼働が、余暇時間の創出による接客時間の向上にも繋がり、来店客数・客単価の増加による店舗売上の拡大を実現します。



03 労働環境の改善

ロボットの導入より、重労働の削減やコア業務への集中ができスタッフのモチベーション向上や身体負荷削減に寄与し、離職率が低下。人員の適正化・離職率低下による、中長期的な採用関連費の削減へ。

ここが時代の転換点です

人材不足が構造的に続いている昨今、AIが社会に浸透し、ロボット導入は単なる効率化手段ではなく、企業が持続的に成長するための戦略投資になります。



未来とともに

いますでに導入期は過ぎており、これからは『自社でどうロボットを活かすのか』がポイントに。
2024年時点で日本国内のサービスロボット市場規模は約1,800億円と言われており、2030年には4,000億円を超えると予測されています。その中心を担うのが、案内ロボットと配送ロボットです。

- 少子高齢化による労働力不足の解決手段は？
- コスト削減と同時に事業の成長を両立させる方法は？
- インバウンド需要への対応は？防犯対策はどうする？
- コロナのような感染症のリスク対策は？
- ブランディングや他社との差別化、話題性は？